

物品・製品 波動測定へのアプローチ／5つのステップ

		アプローチ	(食品分析に例えると)	着目点	評価のしかた・発想	アクアタック研究室では
これまでの見方Ⅱ高いほど良い	STEP1	この製品は波動が良いですか？	この食品は栄養がありますか？	波動	漠然とした「良い／悪い」を唯一の評価基準としています 測定項目を設定して測る、という前提がありません	1項目のみ測定 通常、次のいずれかによって測定します ・身体波動の代表 [免疫機能・恒常性] ・精神波動の代表 [幸福・(愛)]
	STEP2	この製品の波動値は高いですか？ (他の製品と比べて)	この食品の栄養量は多いですか？ (他の食品と比べて)		「波動値が高いほど優れている」を唯一の評価基準としています スポーツで記録を競うのとおなじ発想です	5～10項目測定 1. 平均値の高さを世間の製品と比較します
	STEP3	STEP2に加えて そのなかでも特に高い波動値は？	STEP2に加えて そのなかでも特に多い栄養素は？	項目別の高低	STEP2に加えて 製品の得意分野を大まかに探ります 「特に波動値の高い項目は、その働きが際立っている」という観点に立ちます 波動値の高低を、単なる優劣ではなく、役割の違いと捉えます 例：平均的な波動値の製品は、多くの人の需要に応えている	20～30項目測定＋分析報告(オプション) 1. 平均値の高さを世間の製品と比較します 2. 特に数値の高い項目にも注目します
STEP4	この製品の波動値の高さは、どのような役割を示しますか？	この食品の栄養価は、どのような役割を示しますか？	STEP4に加えて 項目間の数値バランスにも注目し、製品の特性を立体的に捉えます 例：薬のように働くのか、食品のように働くのか 緊張をもたらすのか、リラックスさせるのか		20～30項目測定＋分析報告(オプション) 1. 平均値の高さを世間の製品と比較します 2. 特に数値の高い項目にも注目します 3. 波動の高さから役割を考えます	
これからの見方Ⅱ役割・特性にも注目	STEP5	STEP4に加えて 個々の波動値どうしは、よいバランスになっていますか？ このバランスから想定される特性は？	STEP4に加えて 個々の栄養素どうしは、よいバランスになっていますか？ このバランスから想定される特性は？	高項目間のバランス 低	STEP4に加えて 項目間の数値バランスにも注目し、製品の特性を立体的に捉えます 例：薬のように働くのか、食品のように働くのか 緊張をもたらすのか、リラックスさせるのか	50～100項目測定＋分析報告(オプション) 1. 平均値の高さを、世間の製品と比較します 2. 特に数値の高い項目にも注目します 3. 波動の高さから役割を考えます 4. 数値間のバランスから特性を見出します

ご自身がどのステップに立って波動測定を活用しておられるのか、上表の「アプローチ」からご確認ください。

(現時点では、STEP2～3のアプローチが多いです)

また、製品説明などの際も、代理店様・ユーザー様の理解度をあらかじめ想定しておくことにより、効率のよい説明や資料配布ができます。

アクアタック研究室では、“波動値の高低＝良い／悪い”に留まっていた従来の価値観から次へ移行することを想定しておりますが、

1～5 いずれのステップも尊重し、それぞれに対応させていただいております。